Asia を読む
from NIKKEI Asia

韓国、北の非核化で米と足並み

スー・キム氏
米ランド研究所政策アナリスト

Soo Kim　米中央情報局（CIA）勤務などを経て現職。専門は朝鮮半島などアジアと周辺の政治情勢や安全保障。

韓国の次期大統領に保守系最大野党「国民の力」の尹錫悦（ユン・ソクヨル）氏が選ばれた。前検察総長の尹氏は3月9日の選挙で、対立候補の与党「共に民主党」の李在明（イ・ジェミョン）氏に1%未満の差で辛勝した。投票率が77%だった大統領選挙は、1987年に民主的な選挙が始まって以来最も僅差の戦いになった。

尹氏は議員経験がないこともあって未熟な政治家ともいわれる。一方で直面する課題は大きく、汚職や新型コロナウイルス禍によって二極化した韓国社会を再び結束させなければならない。与党民主党は2024年4月の総選挙まで議会の多数派にとどまり、次期大統領の有力な対抗勢力となる可能性もある。外交面では好戦的な北朝鮮や米中間の緊張、日本との歴史問題など様々な問題に対応しなければならない。

つまり尹氏にはたくさんの仕事がある。韓国メディアは政権移行委員会の顔ぶれや政策上の優先課題について観測を始め、新政権への圧力を高めている。国際的にも尹政権の外交政策をめぐって臆測が飛び交っている。

バイデン米大統領は、勝者が宣言されたわずか数時間後に尹氏に祝意を伝えた。日本の岸田首相は、韓国との関係改善に慎重ながら楽観的な見通しを示した。中国は尹氏の当選を祝う一方、両国は互いに切り離すことのできない重要なパートナーだと新大統領に念を押した。尹氏が大統領になることは、韓国の外交政策にどのような意味を与えるのだろうか。

答えは尹氏の北朝鮮に対する姿勢から予測できるかもしれない。尹氏は、前任者となる文在寅（ムン・ジェイン）政権の北朝鮮政策を卑屈とみなした。北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）総書記への対応は前任者とは異なるものになるとも述べた。尹氏の率いる韓国は、金氏が朝鮮半島の平和を本気で構築したいと考えているかどうかをみるリトマス紙として、北朝鮮の非核化を重視するだろう。

北朝鮮の核とミサイルの脅威への対応の一環として、尹氏は米韓合同軍事演習を正常化すると公約した。尹氏は米国の核抑止力の拡大と米韓の軍の相互運用性を強化しようともしている。こうした方針は北朝鮮には好ましくない。北朝鮮にとって、金氏の核開発と挑発行為を妨げず、融和的な韓国のほうがはるかに好ましいからだ。

尹氏は韓国の外交政策において北朝鮮問題を優先し、特に非核化に立ち向かう意志を強調することで、南北間の力学をより対等なものにしようとしている。こうした立場は北朝鮮の非核化という米国の目標と一致する。米韓同盟は、協力と調整の軌道に乗ることができるかもしれない。

韓国が再び北朝鮮の核問題に正面から取り組むことは、共通の価値観に基づく地域の同盟の誓いも新たにするだろう。日韓関係では元徴用工や慰安婦の問題が残っているが、尹氏は未来志向の関係を強調している。新政権下での日韓関係はより楽観的に捉えることができる。中国は、尹政権の外交政策をヒリヒリしながら待っているかもしれない。韓国が北朝鮮に対決的な姿勢をとれば、中国との関係も同様となる可能性がある。

国内外に大きな課題を抱える尹氏の新しい政権が、韓国の未来と地域の関係を再構築する可能性がある。今後、尹氏がどのような政策をとるのか、近隣諸国は期待と不安の入り交じった強い関心を持って見守ることになるだろう。

関連英文はNikkei Asiaサイト（https://asia.nikkei.com）に

掲載日 2022年3月26日 日本経済新聞 朝刊 9ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。